

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

令和 5 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号を送付します。

令和 5 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

1 病虫害名 ビワキジラミ *Cacopsylla biwa*

2 発生作物 ビワ

3 発生確認の経過、発生状況

(1) 発生確認の経緯

令和 5 年 4 月、安芸郡東洋町北東部の民家に植栽されたビワの果実や葉にすす症状が発生し（写真 1）、これらの果実および葉にはキジラミ類と思われる成幼虫が寄生していた（写真 2～4）。

採集した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本県ではこれまで未確認のビワキジラミであることが確認された。これを受け、4 月下旬～5 月中旬にかけて県内 7 市 4 町のビワ樹およびビワ栽培園において黄色粘着トラップによる発生状況調査を実施した。その結果、発生確認樹の近隣のビワ樹で捕殺が見られたものの、その他の地域では発生は確認されなかった。

(2) 他府県での発生状況

国内では平成 24 年に徳島県で初めて発生が確認され、その後四国では香川県および愛媛県、その他の地域では兵庫県、和歌山県、岡山県、大阪府、京都府で発生の報告がある。

4 形態・生態

(1) 形態

成虫の体長は 2.5～3.5 mm 程度、2 対の翅があり小さなセミのように見える。体は黄褐色～暗褐色で、白色の線状やまだら状の多数の斑紋がある（写真 2）。前翅は透明で、外縁に沿って黄褐色の不明瞭な小斑紋が 4～5 つ並んでいる（写真 5）。幼虫は全長 2 mm 程度、扁平な楕円形で体に褐色のまだら模様があり、体の左右に褐色の翅芽（翅のもと）が飛び出ている（写真 3）。

(2) 生態

本種はアブラムシやカイガラムシ、コナジラミなどに近いカメムシ目の昆虫で、寄生・増殖できる植物はビワのみである。本種はビワ樹上で年間 5 回程度世代交代を繰り返すとみられ、春先に花や幼果、新芽で増殖し、ビワ果実が肥大・成熟する 5～6 月頃に多発生する。盛夏期には樹内部で休眠状態となり、枝先の葉上にはほとんど見られなくなる。ビワの花蕾形成が始まる 9 月以降に活動を再開し、枝先に集まって交尾し花蕾に産卵する。冬期もビワ樹上で休眠することなく越冬する。

5 被害の特徴

幼虫・成虫ともにビワの樹液を吸汁する。特に幼虫は吸汁後に甘露を排出し、これが付着した葉や果実は糸状菌(カビ)が発生して、すす病となり黒く汚損される。また、幼虫が甘露の他に排泄する白い綿状のワックス(ろう物質)の付着も見られる(写真1)。被害は、果実が肥大・成熟する5~6月頃に顕著であり、被害が激しい場合は果実が肥大できずに腐敗・落下することもある。なお、果実の袋かけが行われる3月時点で既に花房や幼果の隙間に寄生している場合、袋かけだけで被害を防ぐことはできない。

6 防除対策

- (1) 樹を観察し、3月以降の果実や新梢のすす病や白い排泄物の付着、4~6月の葉裏の成虫の寄生(写真2、4)を目印に、本虫の早期発見に努める。成虫は黄色に誘引されるため、侵入が警戒される地域では黄色粘着トラップによるモニタリングが有効である。
- (2) 薬剤防除は、収穫終了後から7月中旬まで(成虫が夏期休眠する前)、11月以降の摘蕾後、3月の果実袋かけ前に実施する(表1)。また、新たに苗木を導入した場合には、定植前に薬剤防除を実施し園地への持ち込みを防ぐ。幼虫は花房の奥深くや狭い隙間に潜んでいるため、薬液が十分かかるよう、摘蕾・摘果後にビワ樹全体に丁寧に散布する。また、ビワ枝葉の表面の微毛が薬液をはじくことから、薬液には展着剤を混用する。



写真1 白いろろう物質が付着した果実とすす被害



写真2 成虫



写真3 幼虫



写真4 葉裏の主脈に沿って成虫が寄生する

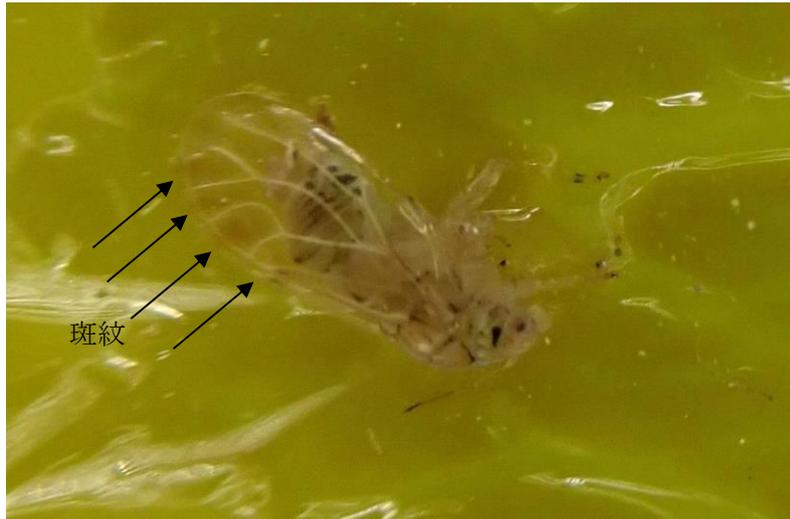


写真5 黄色粘着トラップに捕殺された成虫
前翅の外縁に沿って黄褐色の小斑紋が並ぶ

表1 ビワキジラミに適用のある登録農薬(令和5年5月19日現在)

IRAC コード*	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
1A	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布
1B	スプラサイド乳剤40	DMTP乳剤	1500倍	開花期まで	2回以内	散布
3A	ロディー水和剤	フェンプロパトリン水和剤	2000倍	収穫前日まで	4回以内	散布
	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布
4A	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	2000倍	収穫前日まで	合わせて 2回以内	散布
	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	2000倍	収穫前日まで		散布
	オールスタースプレー	ジノテフラン液剤	原液	収穫前日まで		希釈せずそのまま 散布する。
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
21A	サンマイト水和剤	ピリダベン水和剤	3000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	2000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布

注) IRACコードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

参考文献：ビワキジラミ防除のための総合技術マニュアル、農研機構

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134358.html)

お問合せは、病害虫防除所（TEL：088-863-1132）または環境農業推進課（TEL：088-821-4861）まで